

「設計図は盗めるが、匠の技は盗めない」

🔍 意味の解説

- 表面的な情報や技術(設計図)は模倣できるが、
- 熟練の職人が長年かけて培った経験・感覚・勘(匠の技)は模倣できない
という意味です。

💡 背景や応用例

1. **ものづくりの世界で:**
自動車や家電、建築など、日本の製品が海外で模倣されても、性能や品質まで同じにはならないのは、現場の技術や品質管理能力があるから。
2. **ビジネス・経営の観点で:**
戦略やビジネスモデルは真似されやすいが、それを実行する「人」や「組織文化」は真似できない。
3. **芸術・伝統工芸で:**
絵の描き方や技法を教えても、「味」や「魂」はその人にしか出せない。

🗨️ 関連することわざ・名言

- 「技は見て盗め」
→ ただし、本当の技は「見るだけでは盗めない」とも言える。
- 「真似は所詮、真似に過ぎない」
- スティーブ・ジョブズの言葉にも近い考えがあります:
「優れたアーティストは真似る。偉大なアーティストは盗む。」

スティーブ・ジョブズが好んで使った言葉として知られる「優れたアーティストは真似る。偉大なアーティストは盗む。」は、パブロ・ピカソの言葉だとされています。この言葉は、単に模倣するだけでなく、他の作品から良い要素を学び、それを自分のものとして昇華させることの重要性を示唆しています。

この言葉の解釈は、単に模倣するだけでは、優れた作品は生まれないということです。優れたアーティストは、他の作品からインスピレーションを受け、それを自分のものとして再構築し、新たな価値を生み出すことができる、という意味です。

詳細:

- 「真似る」:

他の作品をそのままコピーすること。これは、模倣に留まり、創造的な要素が少ないと解釈できます。

- 「盗む」:

他の作品の良いところを学び、自分の作品に取り入れること。これは、単なる模倣ではなく、自分のものとして再構築し、新たな価値を生み出すことを意味します。

- ピカソ:

この言葉は、ピカソ自身も様々な芸術作品から影響を受け、それを自身の作品に取り入れてきたことから、ピカソの芸術観を表す言葉として広く知られています。

- スティーブ・ジョブズ:

アップル創業者のスティーブ・ジョブズも、この言葉を好んで使っていたことで知られています。ジョブズは、この言葉を「Apple の DNA」と表現し、優れた製品を生み出すためのインスピレーションの源として捉えていたと[ライフハッカー・ジャパンは伝えています](#)。

この言葉は、芸術だけでなく、ビジネスやイノベーションなど、様々な分野で応用できる考え方です。他の成功事例から学び、それを自分のものとして再構築することで、より優れた結果を生み出すことができる、という教訓を含んでいます

コピー・キャッチコピー風に応用すると…

- 「設計図は写せても、魂までは写せない」
- 「盗まれるのは形、残るのは技」
- 「本物は、図面じゃなく、手に宿る」
- 「模倣できる設計。模倣できない匠の魂。」